

平成26年度 村上市理科部 活動報告

部長 平山 裕也 (村上小)

1 研究主題

- (1) 日々の学習指導に活かせる指導力を高めるための研修を進める
- (2) 先進教育の実践者の指導法と理論を学ぶ

2 研究の概要

5月 9日 部会 (総合文化会館)

- ・活動計画の作成
- ・昨年度の事業内容の報告

8月 2日 研修会「夏の植物観察会」(葉師山)

- ・講師 河内 花子 様 (理科センターと共催事業)

11月27日 研修会「理科指導研究発表会」(岩船小学校)

- (1) 公開授業 6学年「水溶液の性質」 授業者 柳沼 沙恵子 教諭
・指導者 下越教育事務所 支援第2課指導主事 中野 國芳 様
- (2) 研究協議会

2月17日 師範授業、講演会 (予定)

- ・講師 筑波大学附属小学校教員 森田 和良 様
- (1) 師範授業 6学年「水溶液の性質」(発展)
- (2) 講演会 「意味理解志向に応える理科指導」

3 研究の実際

村上市立岩船小学校は、村上市小学校教育研究会の指定を受け2年間理科学習指導授業研究に取り組む。今年度は研究指定1年目である。「児童が意欲をもって主体的に学習に取り組む理科指導の工夫」という研究主題で、公開授業を実施した。

単元の目標達成のための手立てとして「学習過程のパターン化」「学びの意識を高め問題意識をつなげる単元構成」「意欲が高まる声かけ」などを行っている。本単元においては、「単元の終わりに謎の水溶液の正体を当てよう。」とゴールの姿を示し、問題意識をつなげていこうと考えていた。

本時は、炭酸水に溶けているものは何かを実験を通して確かめる学習。前時の学習を受けて「炭酸水には気体が溶けているのではないか。」と思いをもち、これまでに学習した気体とその性質を振り返った。その後、溶けている気体を予想し、実験方法を考えた。本時は、石灰水を使用する方法に統一して実験を行い、炭酸水は二酸化炭素が溶けている水溶液であることを確認した。

4 成果と課題 (協議会で話し合われたこと)

- 授業時間内に既習事項である空気の成分と性質を想起させる時間を設けており、その後の実験方法を考える場面に活かされている。また、その際、児童が積極的にノートを振り返りに利用しているところがよい。
- まとめ方の文型が示されており、繰り返し行っていることで、自分の力でまとめ方が身に付いてきている様子がうかがえる。
- 溶けている気体の予想の場面で、既習の気体を振り返り→「この中のどれ」という流れであったが、自分の主体的な予想になっていたか疑問。「みんながよく知っている気体が溶けています。」と先に示した方が、主体的に予想している姿に近づくのではないか。
- 児童が考えた実験方法のうち簡単にできるものと限定してしまうことで、「意欲をもって主体的に取り組む」という子どもの姿が見られなかったのではないか。石灰水が白く濁った様子を見ても声を上げる児童がほとんど見られなかった。

